

随泉寺寺報

平成 25 年 (2013 年) 1 2 月号 第 5 2 0 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

報恩講法要

講師 呉 明円寺住職 竹田 嘉円師

講題 『笑顔でいこう』

■浄土真宗では、親鸞聖人の命日にその遺徳を偲んで営む仏事を「報恩講」といい、阿弥陀如来さまのご恩と親鸞聖人のご恩を偲び、感謝させていただき最も大切な行事です。本願寺では毎年1月9日より16日まで七昼夜の法要が勤められます。広島院をはじめ一の寺院やご門との家庭では、とりこして、日時を早めて年内に営む慣例がありますので、報恩講のことを「おとりこし」ともいいます。この報恩講の名称は、本願寺第3代宗主覚如上人が永仁2年(1294)の親鸞聖人33回忌法要の折、聖人の遺徳を讃嘆するご文を『報恩講式』と名づけられたことに始まります。真宗門徒にとって最も大切な行事でありますので、各家庭でも、できれば家族そろって報恩講をお勤めいたしましょう。

まずお仏壇のお掃除をして、仏具はお磨きをいたします。前卓には打ち敷きをかけ、できれば五具足にします。そして季節のお花をお供えし、お供物は餅、菓子、物を一対づつお供えします。またおろうソクは出来れば、朱蠟【赤いろうソク】を使用してください。信は莊嚴より起こるといわれています。大切にお迎えする心が大事です。

1 2 月の法座予定

- 1 2 月 2 日 …………… 本部役員会 忘年会
- 1 2 月 1 4 日 …………… 掃除 平原西
- 1 2 月 1 5 日朝席午前 10 時より …… 報恩講法要 おとき
- 1 2 月 1 5 日昼席午後 1 時より …… 報恩講法要
- 1 2 月 3 1 日午後 11 時より …… 除夜会 引き続き 鐘つき 元旦会
- 1 月 6 日午後 5 時より …… 門信徒会本部役員会

☆ 安芸北組 報恩講三寺参り

今年も、安芸教区・安芸北組 23ヶ寺では、『報恩講三寺参り』を開催することとなりました。23ヶ寺のうち、好きな三ヶ寺の報恩講法座にお参り下さい。参拝記念のスタンプを押しますので、三ヶ寺分たまったら、素敵なお品と交換させていただきます。この機会に皆さんもいろいろなお寺の雰囲気を楽しんでみませんか？

『報恩講三ヶ寺参り』の参加の仕方

- ①お手次のお寺で『報恩講三ヶ寺参りスタンプ帳』をもらいます。
- ②3ヶ寺の報恩講に参詣し、帳場でスタンプをもらいます。
- ③3ヶ寺分たまったら、事務局まで郵送してください。記念品を贈呈します。

お問い合わせは

安芸郡熊野町中溝 4 丁目 16-5

TEL 082-854-0277 安芸北組 伝道部 事務局 西昭寺

☆ 除夜の鐘つき 1 2 月 3 1 日午後 1 1 時～

今年も例年のごとく除夜会に引き続き、除夜の鐘つきを行います。

過ぎた1年を振り返って感謝の気持ちをあらわす、大晦日に勤める法要を、『除夜会(じょやえ)』といいます。随泉寺では、毎年12月31日の午後11時から本堂で「正信偈」のお勤めをしたあと、11時30分から本堂前の鐘撞き堂で、参詣下さった方に「除夜の鐘」を撞いて頂いております。



『元旦会』は「元旦の法要」という意味です。新年を祝うと同時に今年もお念仏と共に日々を送らせていただく誓いを新たにするお正月のすがすがしい行事です。鐘撞きに引き続いて午前零時から修行いたします。

「一年の計は元旦にあり」といいますが、浄土真宗の門徒にとって元旦は、真実に生かされる身の幸せを喜び、この一年をお念仏のみ教えをよりどころに送る決意を新たにする日です。元旦の朝には、家族揃って家の仏壇に灯りを点じ、仏さまに年頭のお参りをして新年を新たに迎えたいものです。



12月

「人はともに敬い親しみ

憎しみ嫉（ねた）んではならない」

（世間人民 父子兄弟 夫婦家室 中外親属 當相敬愛 無相憎嫉）
佛説無 寿経下

とうとう、今年最後の月となりました。今年、深刻な体験をなさった方、反対に平凡な日々であったとお感じの方もいらっしゃるでしょう。私自身は、忙しかったとは感じますが、比較的、穏やかな年でもあったように思います。



世の中を顧みますと、政治や経済の方では残念な事件が目立ちました。不祥事が発覚すると、責任者がいったん否定し、動か 証拠を突きつけられて、ようやくお詫びをするという姿はまことに情けないものです。組織の責任者が嘘をつくとすれば、個人的な事情よりも、組織全体の事情がありそうです。今

までは会社のためと言う言い訳が 用した時代でしたが、これからはそうではなさそうです。

倫理や道徳を浄土真宗ではどのように考えたらよいでしょうか。悪人が救われるのでは、道徳が疎かになると心配する方もいらっしゃると思いますが、悪人が救われなければ、無条件のお慈悲、大悲とは言えません。

でも、悪を奨励しているわけでもありません。仏教で教える基本的なこと、他の命を奪う、盗み、不適切な男女関係、嘘をつくの四つは、悪いことに違いありません。悪人が救われるにしても、悪いことをしないにこしたことはありません。悪事は、他の人々を傷つけるからです。弱い個人が悪に負けてしまうのを防ぐのは、本人と共に、周囲の人々の支えや社会の仕組みも大事です。努力しても失敗してしまうところに、初めて、悪人が救われるという阿弥陀如来さまのお慈悲の有り難さが納得されます。



浄土真宗本願寺派門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」
— 浄土真宗一口法話 —

「おとき」と「おひじ」

仏事に参詣される人びとにふるまわれる食事を「おとき」とよんでいます。漢字では「お齋」と書いて「お



とき」と読みます。「齋」の字をなぜ「とき」とよむのか、疑問に思われたことはありませんか。

もともと「齋」とは身心をきちんと準備することをあらわす漢字です。また、酒や肉をまじえない食事、いわゆる精進料理をあらわしました。でも「とき」というよみはでてきません。

お釈迦さまの定められた出家者の「戒」（いましめ）のなかに、「不非時食戒」という食事に関する戒があります。出家者は、正午を過ぎると食事をしてはならないというものです。お仏飯を朝にお供えして、午前中にお下げすると聞かれた方も多いでしょうが、その理由もこの「不非時食戒」によるものです。世俗を離れて修行に専念する者は、托鉢でいただいた食物を、一日一度、かならず午前中にいただき、決して残してはならないという定めです。もちろん禁酒です。



中国では酒肉を用いない料理を「齋食」とよんでいました。そこから出家の食事も「齋」の字が当てられたのです。

それが出家者にかぎらず、寺院で参詣者に供する食事は、午前中の食事の時に出すべきですから「齋」を「とき」とよみ、さらに、食事時である正午を過ぎてすすめる食事を「非時」（時に非ず）と称するようになったのです。

出家者に食事を供養することは、単に空腹を満たすためではなく、仏道修行を支える大変重要な行為として尊ばれました。禅宗では修行僧の食事を司る役職を典座といい、修行僧を養うことは仏道修行を養うことですから、極めて重要な役職とされています。

「お齋」も単なる食事ではなく、仏道、仏縁を結ぶ大切な仏事であることを忘れてはなりません。

（仏教婦人会総連盟講師 天岸浄円）

「楽になってよかったね。ご苦労様でした」

真 目で、几帳 な夫でした。普段は口数の少ない夫が、仕事に対する誠実な気持ちを私に話してくれたのを よく覚えています。時に冗談を言って私たちを笑わせ、 白い一 をのぞかせていました。

子供たちが小さい頃、夫は家族を 大久野島や山陰へのドライブ旅行に連れて行ってくれたものです。コーヒーが好きで 休日に家の近くの喫茶店に私を誘ってくれたのも良き思い出となりました。

夫 豊治は平成25年8月17日71年の生涯を閉じました。5年ほど前から透析治療に っていた夫。もっと長生きしてほしいと 家族は願っておりました。。今はただ、病から解放された夫にねぎらいの言葉をかけ、感謝を込めて温かく見送ります。

H 25. 8. 19 宮城千恵子

